

受付番号

2022-27

許可番号

大歯医倫 第 111235-0 号

研究課題名

橈骨遠位端骨折における方形回内筋サインのエコーの有用性

研究責任者

上村 守

申請者

山根 款

研究終了日

2024年3月31日

所属

解剖学講座

所属

歯学研究科（解剖学専攻）

職名

主任教授

職名

大学院2年生

申請の概要

方形回内筋サインとは、橈骨遠位端骨折で患側の方形回内筋が出血により腫脹するもので、あまり周知されていないが、骨折を肯定する一つの手がかりとして考えられている。幼少児では若木骨折や膨隆骨折が多く、骨折線が確認されない症例も多く、また転位がX線の方向によっては認められない場合では骨折が見逃される現象も少なくない。

そこで、本研究では、リアルタイムに方形回内筋を画像化出来るエコーを使用し、橈骨遠位端骨折とくに若木骨折における方形回内筋サインを描出し、エックス線画像で判別できない骨折を発見することができるようにすることを目的とする。

本研究により、方形回内筋サインをエコーによって見つけることで骨折の早期発見、見逃しの防止が可能になるものと期待される。